

介護保険施設実態調査

調査結果

2022年度

神戸市

定員数

	特別養護老人ホーム	介護老人保健施設	介護療養型医療施設・介護医療院	特定施設・サービス付き高齢者向け住宅	認知症対応型共同生活介護
施設数 (回答数)	67施設	24施設	1施設	131施設	85施設
定員数	4,416人	一般棟 1,722人 専門棟 604人 計 2,326人	179人	7,352人	1,664人 198ユニット
1施設あたり平均※	65.9人	101.1人	179.0人	58.3人	19.6人 2.3ユニット

※「1施設あたり平均」は、定員数の設問に回答があった施設の平均。

待機者数

	特別養護老人ホーム	介護老人保健施設	介護療養型医療施設・介護医療院	特定施設・サービス付き高齢者向け住宅	認知症対応型共同生活介護
施設数 (回答数)	67施設	24施設	1施設	131施設	85施設
待機者数※1 (うち神戸市在住者)	4,481人 (3,520人)	25人 (18人)	12人 (11人)	224人 (210人)	190人 (183人)
1施設あたり平均※2 (うち神戸市在住者)	72.3人 (56.8人)	1.1人 (0.8人)	12.0人 (11.0人)	1.9人 (1.8人)	2.3人 (2.2人)

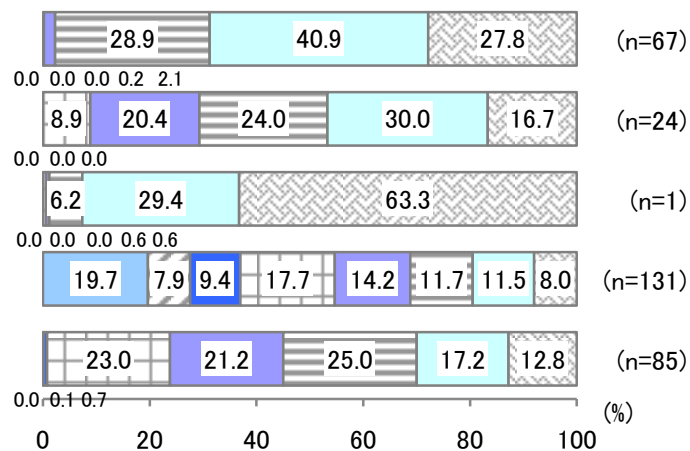
※1：回答施設の待機者数の合計。複数施設への待機者は重複してカウント。

※2：「1施設あたり平均」は、待機者数の設問に回答があった施設の平均。

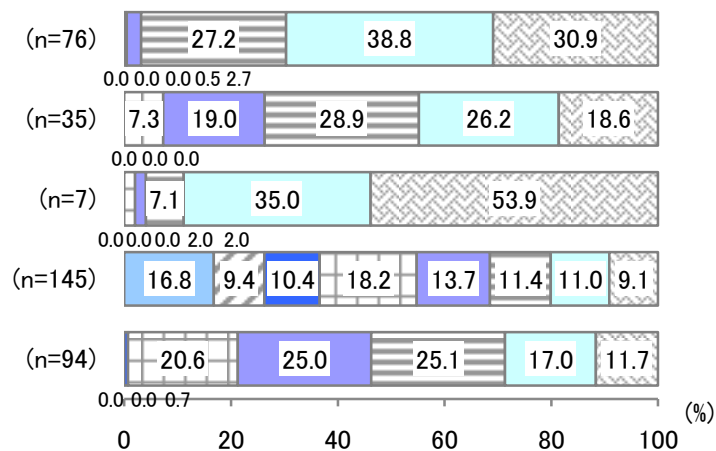
要介護度

要介護度は、特定施設・サービス付き高齢者向け住宅を除く施設で『要介護3以上』が過半数を占めています。

<今回調査>



<前回調査>

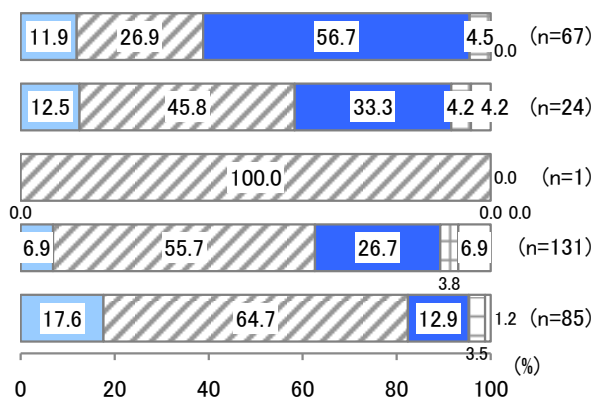


自立
 要支援1
 要支援2
 要介護1
 要介護2
 要介護3
 要介護4
 要介護5

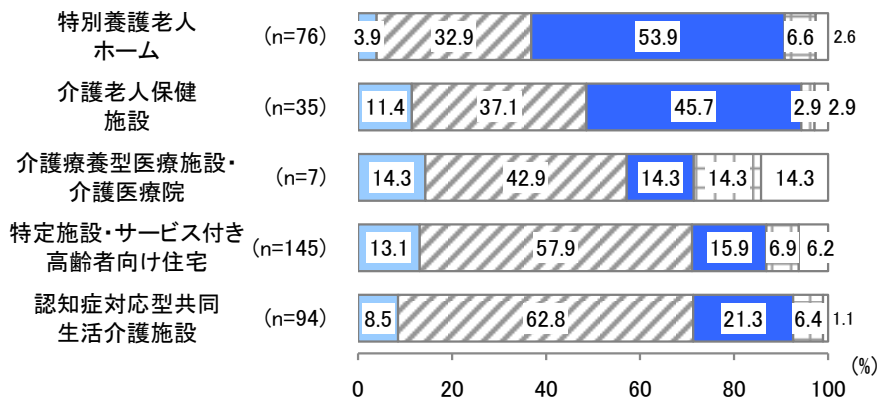
退所（院・居）者の平均入所期間

退所（院・居）者の平均入所期間は、2～3年前と比較して、特別養護老人ホームを除く施設で「変わらない」が最も多くなっている。また、特別養護老人ホームでは「短くなっている」が56.7%と過半数を占めている。

<今回調査>



<前回調査>



■ 長くなっている ■ 変わらない ■ 短くなっている ■ 令和3年4月以降に開設した施設であるので比較できない □ 無回答

長くなっている理由

- ・利用者の重度化（特養）
- ・健康管理(医療連携強化)ができてきている（特定、サ高住）
- ・看取りまで行っているため（GH）

短くなっている理由

- ・入居時の高齢化・重度化（特養・GH）
- ・特養への入所者の増加（老健）
- ・在宅復帰支援に取り組むようになった（老健）
- ・コロナによる影響（特養・特定、サ高住・GH）

※今回調査の「令和3年4月以降に開設した施設であるので比較できない」は、前回調査では「平成30年4月以降に開設した施設であるので比較できない」となっている。

■ 医療が必要な入所(居)者について

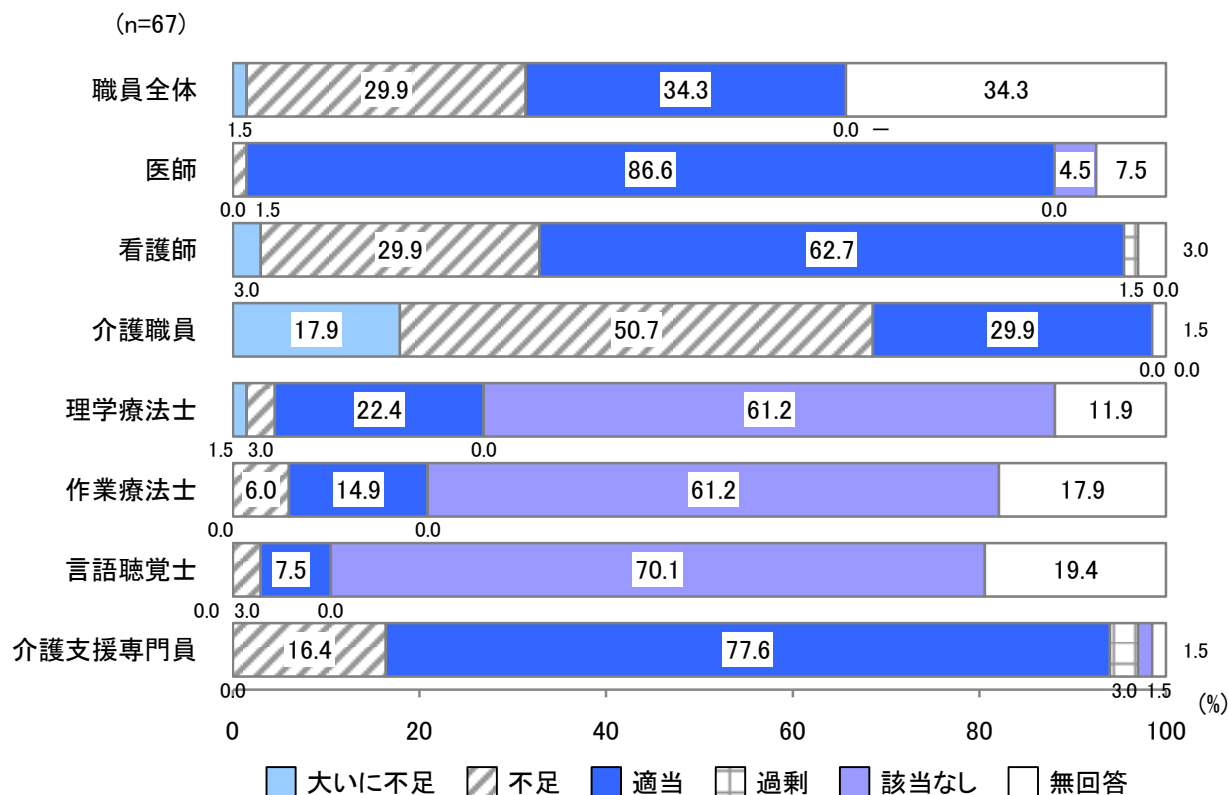
医療を必要とする入所（居）者

	特別養護老人ホーム	介護老人保健施設	特定施設・サービス付き高齢者向け住宅	認知症対応型共同生活介護
褥瘡処理	2.5人	3.5人	1.2人	0.8人
浣腸・摘便	13.0人	26.5人	2.5人	1.8人
導尿・膀胱留置カテーテル	3.3人	5.4人	1.5人	0.3人
膀胱ろう	0.1人	0.3人	0.0人	0.0人
人工肛門	0.5人	0.7人	0.4人	0.1人
喀痰吸引	1.7人	4.8人	0.8人	0.1人
インスリン注射・血糖測定	0.7人	4.3人	1.1人	0.2人
経管栄養療法	0.7人	1.4人	0.3人	0.0人
胃ろう	2.3人	4.7人	0.7人	0.1人
酸素療法	0.9人	1.7人	1.0人	0.2人
脱水などに対する一時的点滴	1.1人	4.0人	0.6人	0.3人
透析	0.2人	0.6人	0.5人	0.1人
ストマケア（パウチの交換を含む）	0.6人	0.8人	0.5人	0.1人
気管切開	0.0人	0.1人	0.1人	0.0人
食道ろう	0.0人	0.0人	0.0人	0.0人
ペースメーカー	1.2人	1.3人	1.0人	0.4人
その他	0.0人	0.0人	0.0人	0.0人

※数値はすべて、医療を必要とする入所（居）者の設問に回答があった施設の1施設あたり平均。 5

職員の過不足状況（特別養護老人ホーム）

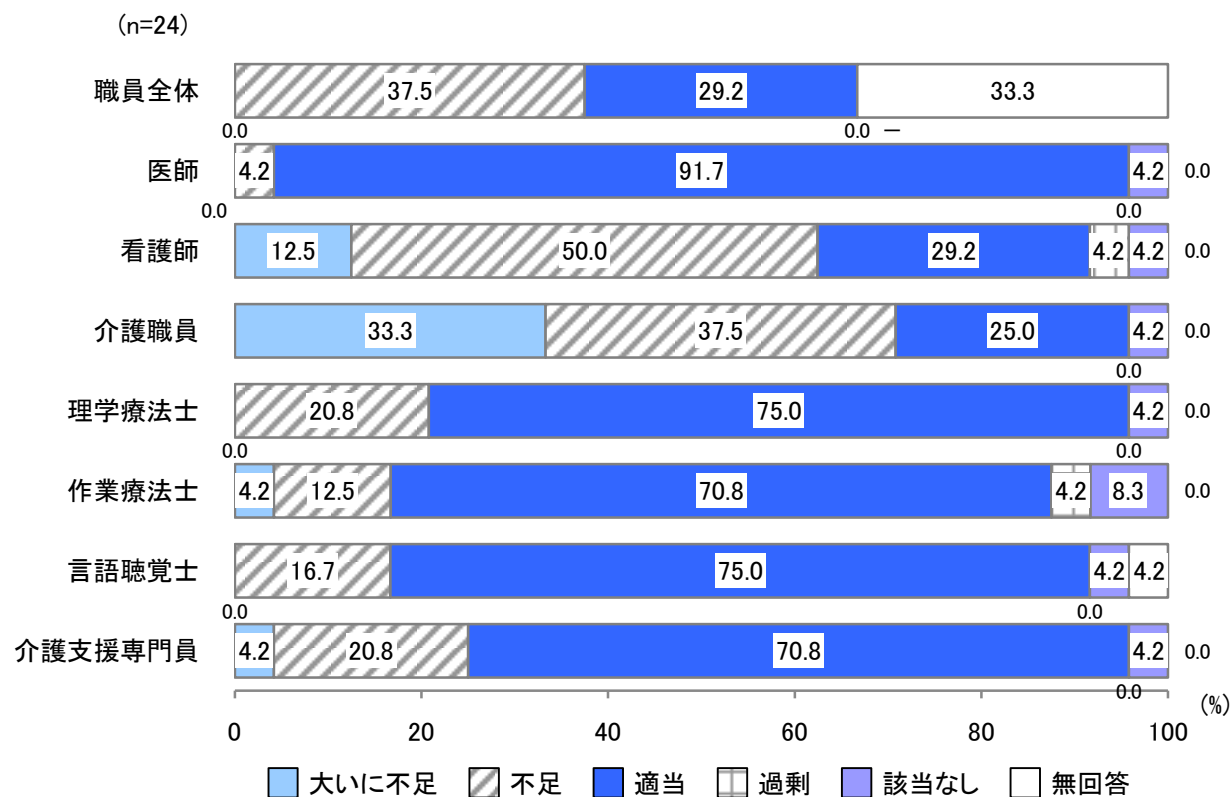
特別養護老人ホームの職員の過不足状況は、介護職員で「大いに不足」と「不足」を合わせた『不足』が68.6%となっている。



※職員全体には「該当なし」の選択肢はなし

職員の過不足状況（介護老人保健施設）

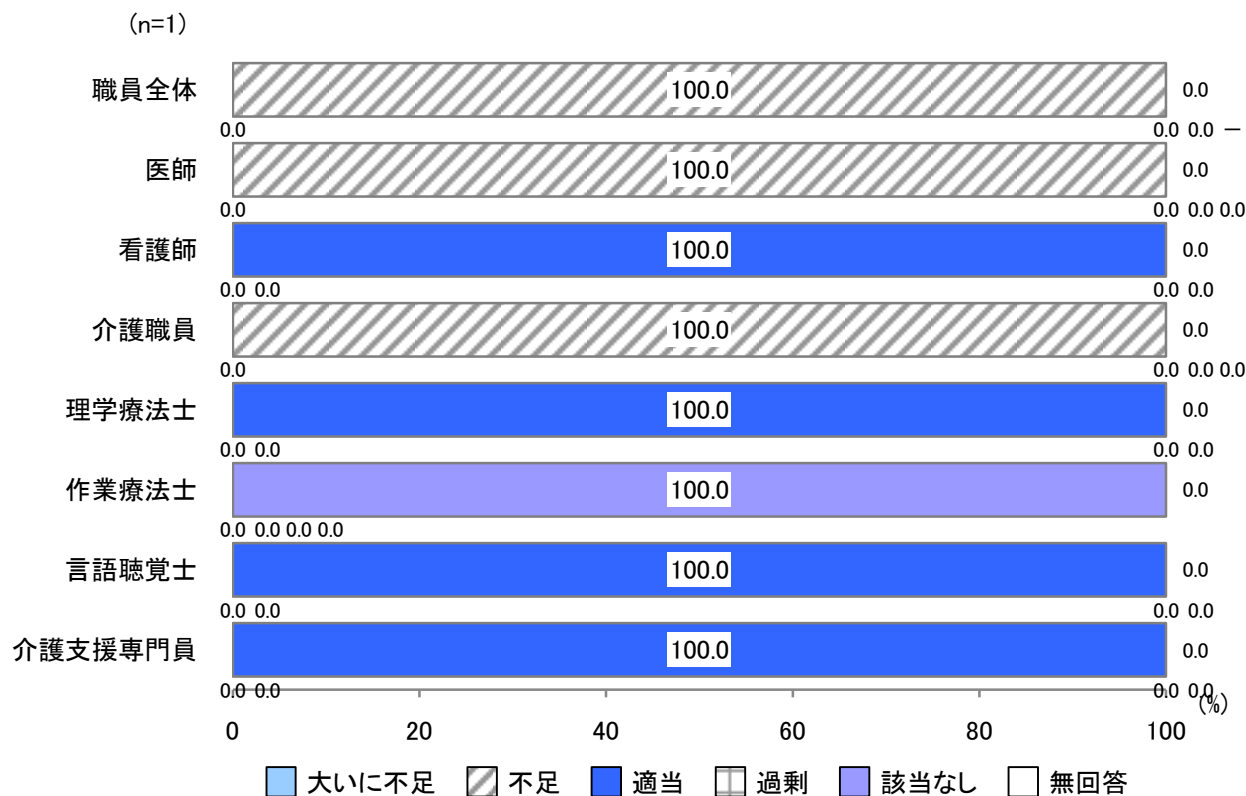
介護老人保健施設の職員の過不足状況は、介護職員で「大いに不足」と「不足」を合わせた『不足』が70.8%となっている。



※職員全体には「該当なし」の選択肢はなし

職員の過不足状況（介護療養型医療施設・介護医療院）

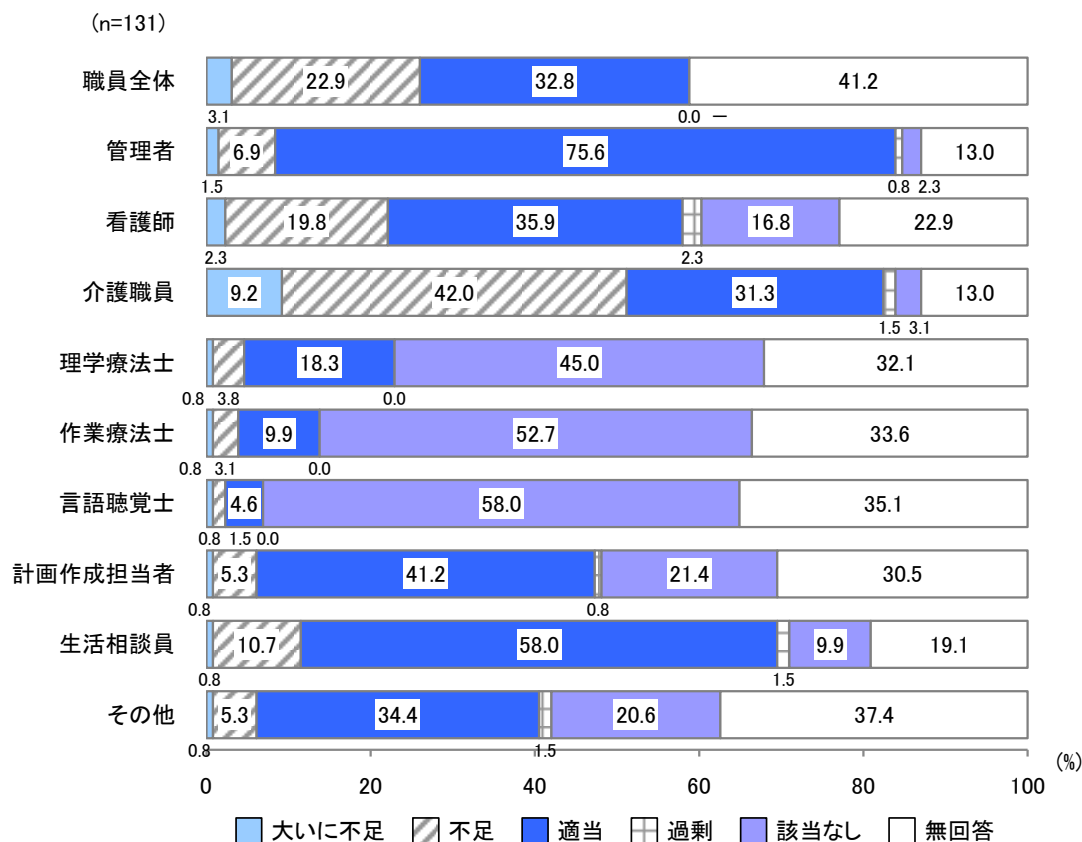
介護療養型医療施設・介護医療院の職員の過不足状況は、医師と看護師で「不足」と回答している。



※職員全体には「該当なし」の選択肢はなし

職員の過不足状況（特定施設・サービス付き高齢者向け住宅）

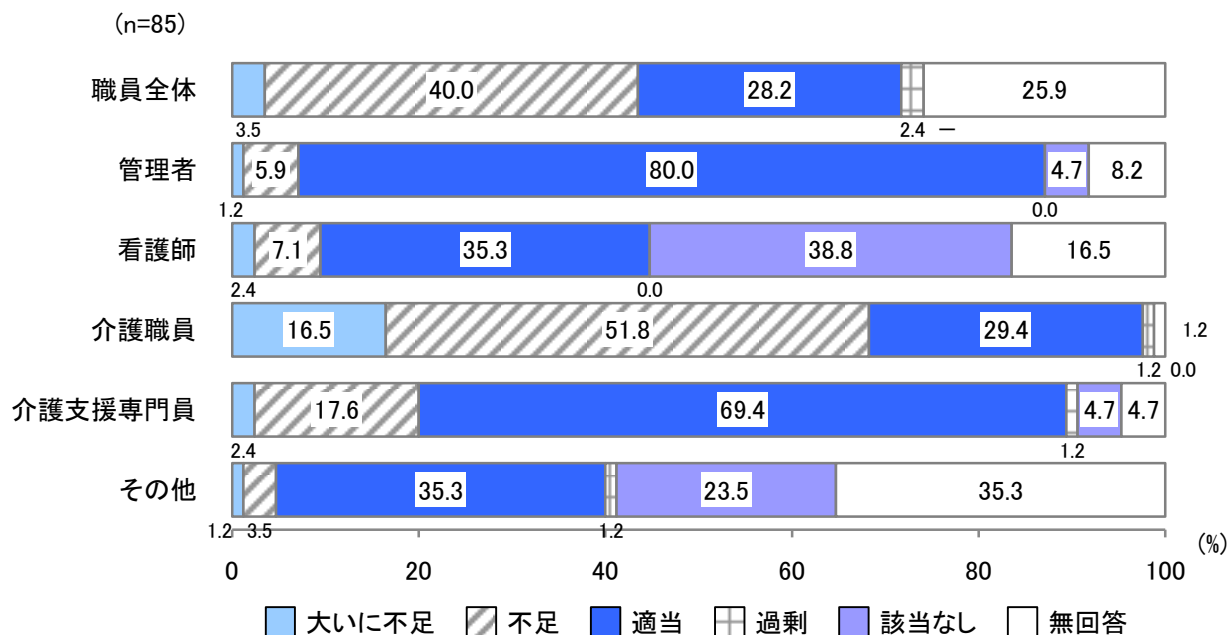
特定施設・サービス付き高齢者向け住宅の職員の過不足状況は、介護職員で「大いに不足」と「不足」を合わせた『不足』が51.2%となっている。



※職員全体には「該当なし」の選択肢はなし

職員の過不足状況（認知症対応型共同生活介護施設）

認知症対応型共同生活介護施設の職員の過不足状況は、介護職員で「大いに不足」と「不足」を合わせた『不足』が68.3%となっている。

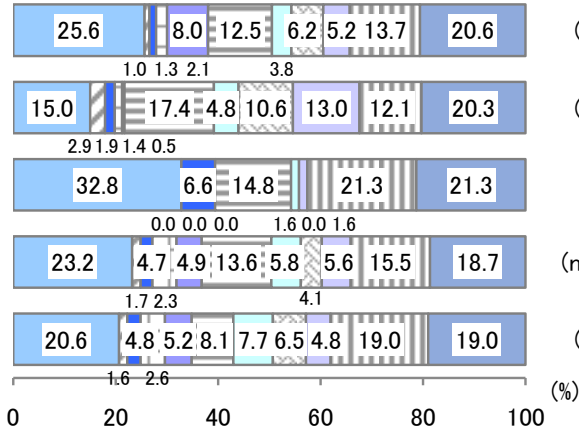


※職員全体には「該当なし」の選択肢はなし

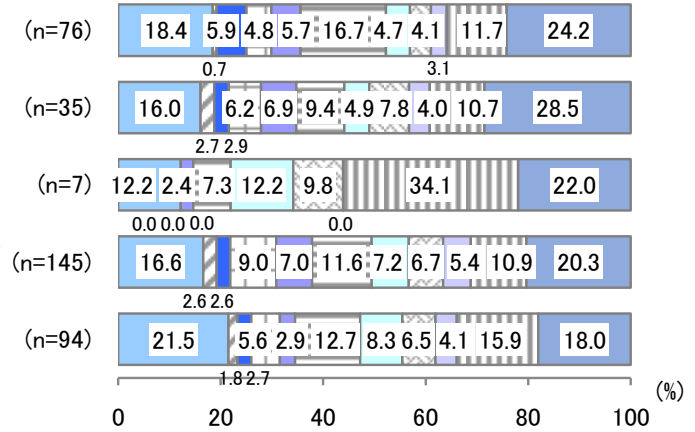
退職した主な理由

認知症対応型共同生活介護施設の職員の過不足状況は、介護老人保健施設を除く施設で「職場内の人間関係」が最も多くなっている。

<今回調査>



<前回調査>



- 職場内の人間関係
- 利用者やその家族との人間関係
- 多忙でじっくり仕事に取り組めない
- 責任が重くストレスが大きい
- 家庭と仕事の両立ができない
- 妊娠や出産、育児、転勤など自分や家庭の事情
- 親など家族の介護を行うため
- 賃金を理由として
- 労働時間、休暇等の労働条件
- 腰痛等の健康上の問題
- その他

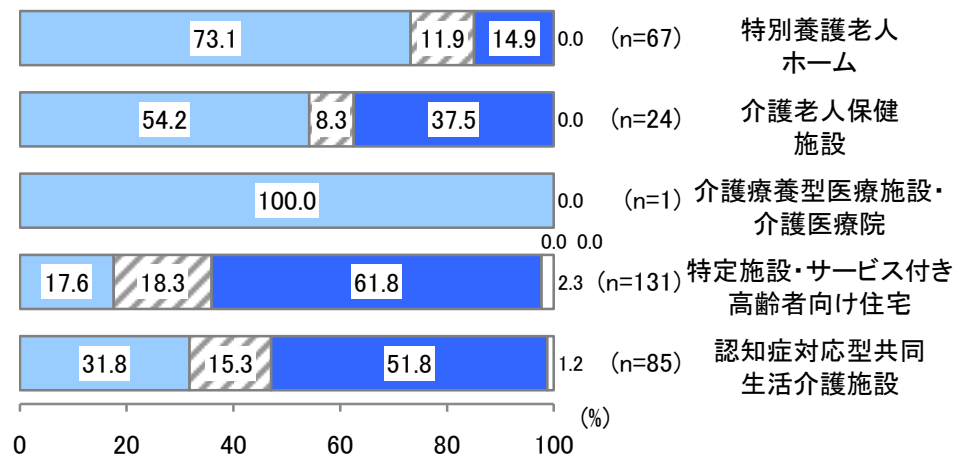
その他の理由

- ・ 定年退職
- ・ 転職、スキルアップのため
- ・ 雇用契約期間満了
- ・ ダブルワークが厳しくなった
- 等

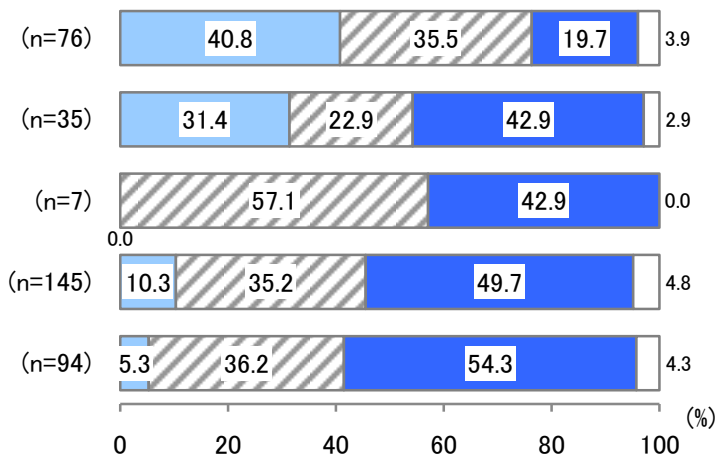
外国人介護職員の有無

外国人介護職員の有無は、特定施設・サービス付き高齢者向け住宅で「現在、外国人介護職員がいる」が17.6%と他に比べて低くなっている。

<今回調査>



<前回調査>



- 現在、外国人介護職員がいる
- 現在、外国人介護職員はいないが受け入れを検討中(または関心がある)
- 現在、外国人介護職員はいないし、受け入れ予定もない
- 無回答

外国人介護職員の在留資格

	特別養護老人ホーム	介護老人保健施設	介護療養型医療施設・介護医療院	特定施設・サービス付き高齢者向け住宅	認知症対応型共同生活介護
特定技能1号	2.2人	2.0人	0.0人	0.5人	1.0人
技能実習（介護職種）	1.3人	1.8人	3.0人	0.7人	0.4人
EPA（経済連携協定）	0.8人	0.2人	0.0人	0.2人	0.2人
在留資格「介護」	1.2人	0.5人	0.0人	0.8人	0.2人
留学（介護福祉士養成施設）	0.7人	0.5人	0.0人	0.0人	0.1人
その他	0.3人	0.3人	2.0人	0.3人	0.2人

※数値はすべて、外国人介護職員の在留資格の設問に回答があった施設の1施設あたり平均。

その他

- ・永住者
- ・家族が滞在 等

外国人介護職員の国籍

	特別養護老人ホーム	介護老人保健施設	介護療養型医療施設・介護医療院	特定施設・サービス付き高齢者向け住宅	認知症対応型共同生活介護
ベトナム	2.7人	3.4人	5.0人	0.7人	1.2人
インドネシア	1.6人	0.5人	0.0人	0.4人	0.2人
フィリピン	0.5人	0.2人	0.0人	0.4人	0.3人
ミャンマー	0.9人	0.8人	0.0人	0.3人	0.0人
ネパール	0.5人	1.2人	0.0人	0.1人	0.3人
モンゴル	0.0人	0.4人	0.0人	0.0人	0.0人
中国	0.2人	0.0人	0.0人	0.1人	0.0人
その他	0.1人	0.6人	0.0人	0.2人	0.1人

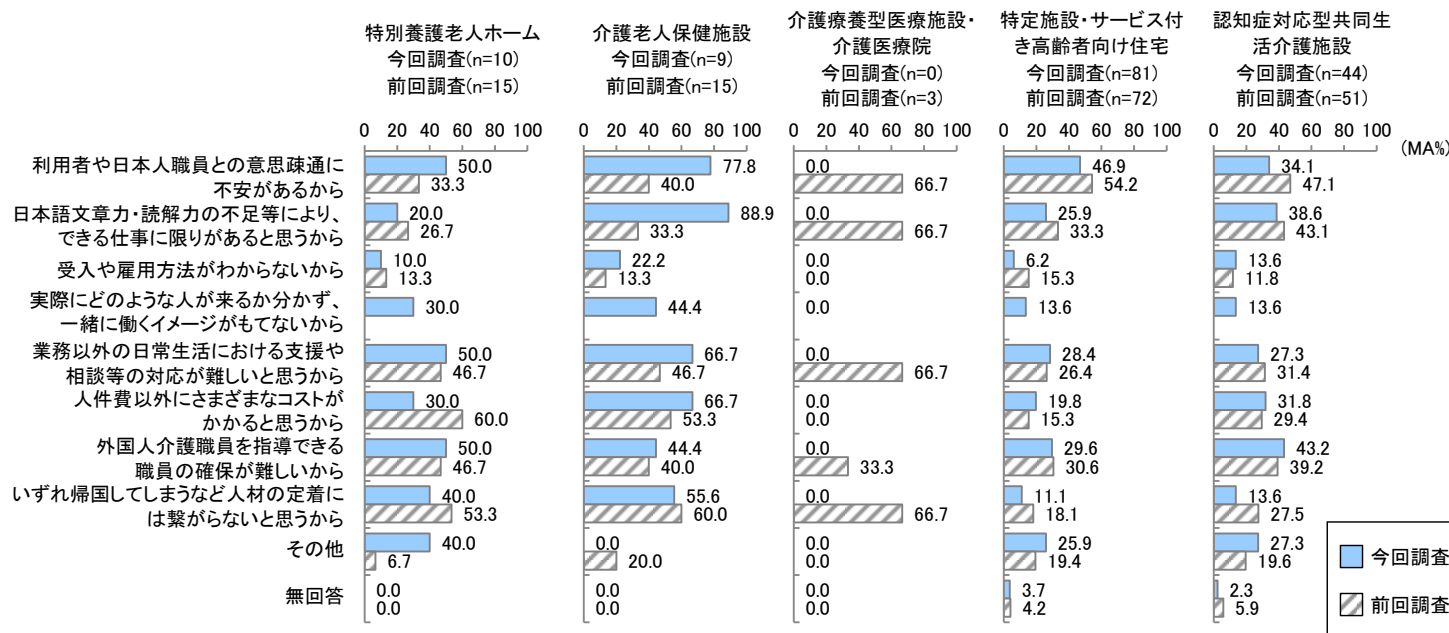
※数値はすべて、外国人介護職員の国籍の設問に回答があった施設の1施設あたり平均。

その他

・スリランカ ・バングラデシュ ・キルギス
 ・タイ ・トーゴ ・ボリビア ・韓国 等

外国人介護職員の受入を考えていない理由

外国人介護職員の受入を考えていない理由は、「利用者や日本人職員との意思疎通に不安があるから」「外国人介護職員を指導できる職員の確保が難しいから」が多くなっている。



※今回調査の「利用者や日本人職員との意思疎通に不安があるから」は、前回調査では「日本人職員との意思疎通に支障があると思うから」と「利用者等との意思疎通に支障があると思うから」に分かれている。

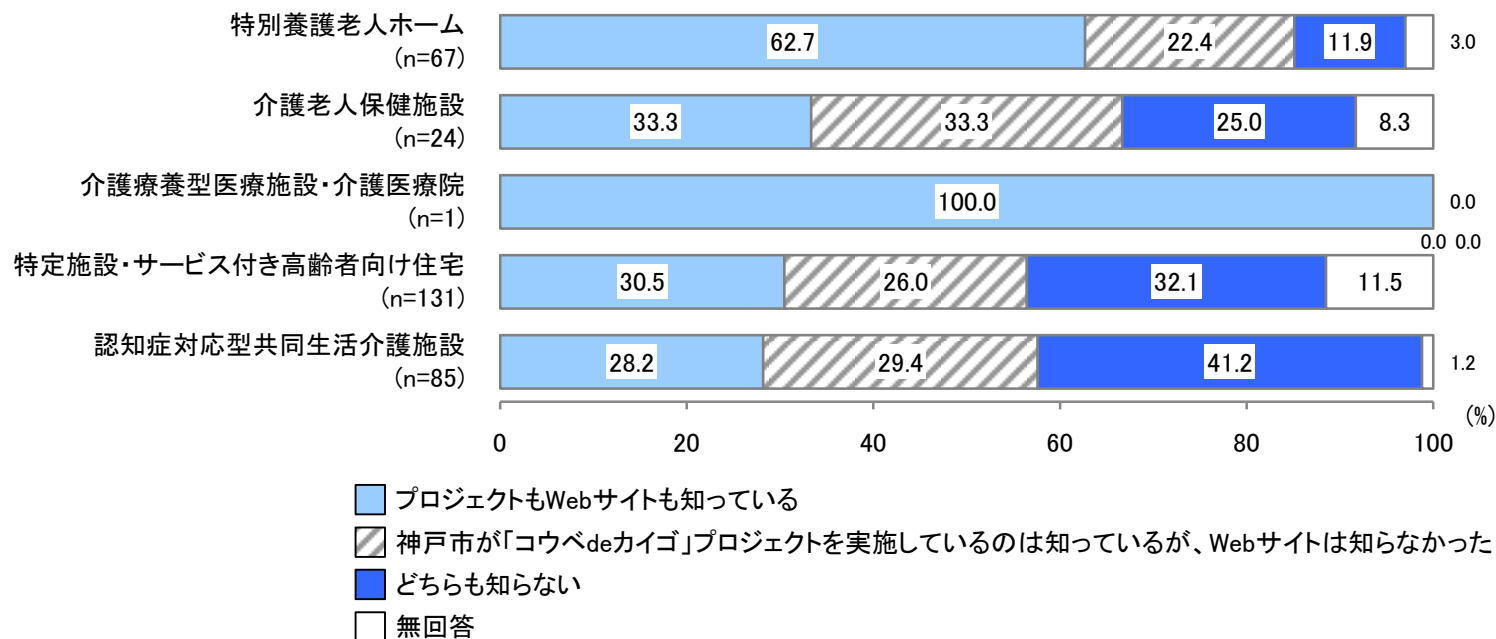
※今回調査の「日本語文章力・読解力の不足等により、できる仕事に限りがあると思うから」は、前回調査では「日本語文章力・読解力の不足等により、介護記録の作成に支障があると思うから」。

※今回調査の「受入や雇用方法がわからないから」は、前回調査では「受入方法や活用方法がわからないから」。

※「実際にどのような人が来るか分らず、一緒に働くイメージがもてないから」は今回新規選択肢。¹⁵

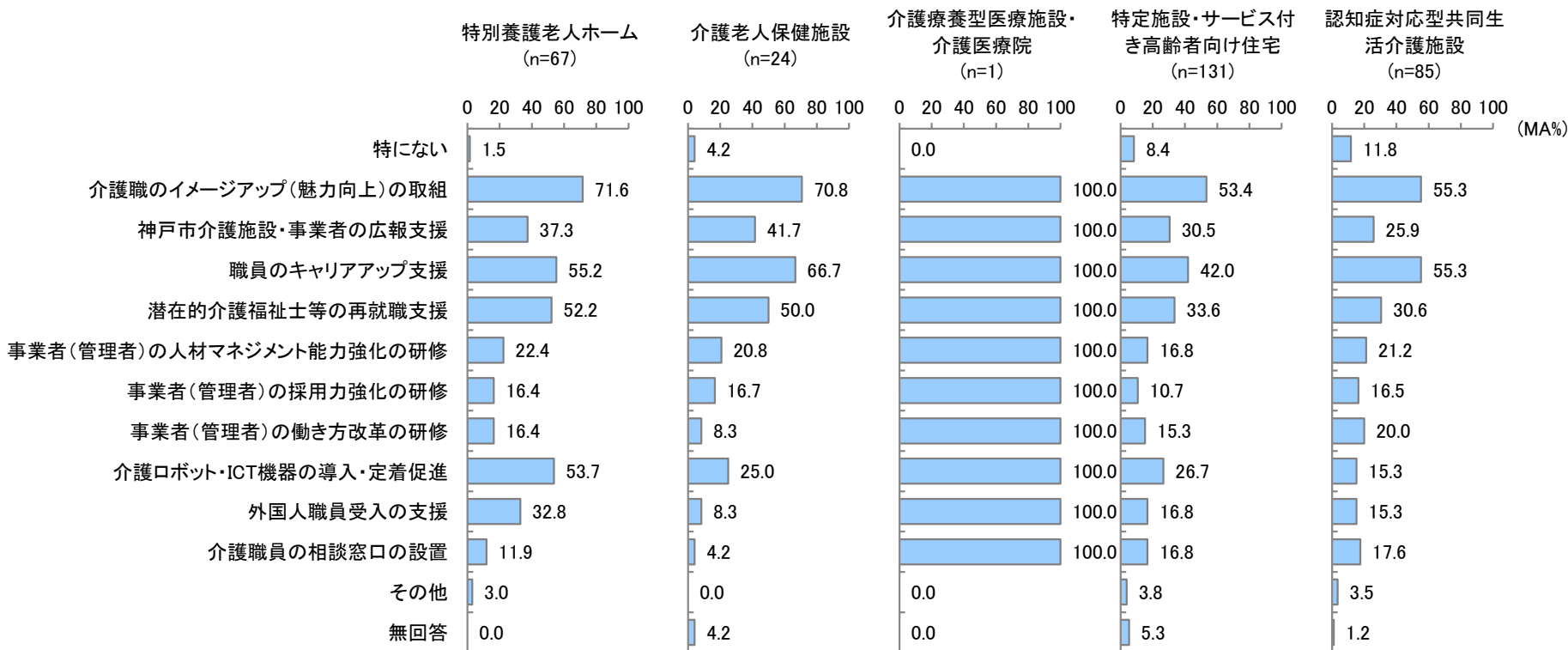
「コウベdeカイゴ」の認知度

「コウベdeカイゴ」の認知度は、認知症対応型共同生活介護施設で「（プロジェクトもWebサイトも）どちらも知らない」が41.2%となっている。



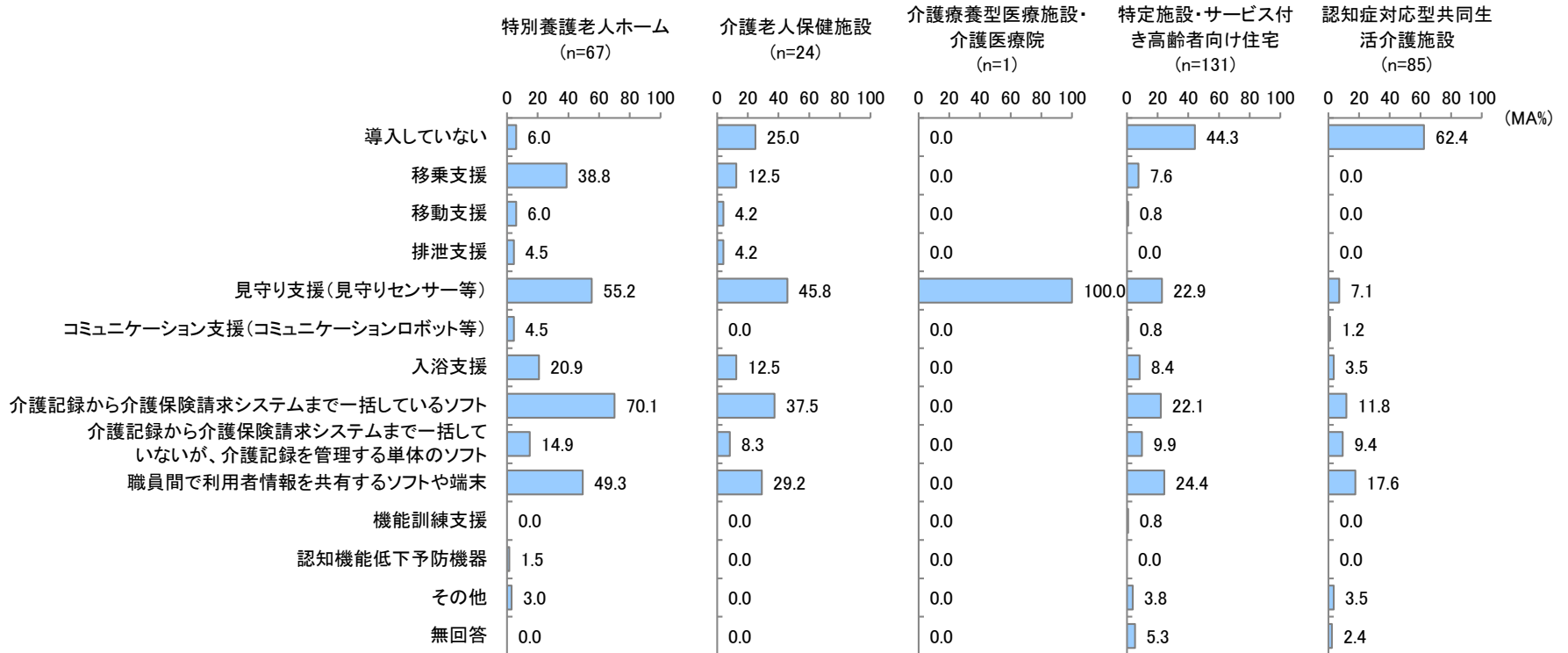
介護人材の確保・育成について、行政に期待すること

介護人材の確保・育成について、行政に期待することは、「介護職のイメージアップ（魅力向上）の取組」がいずれの施設も5割を超えている。



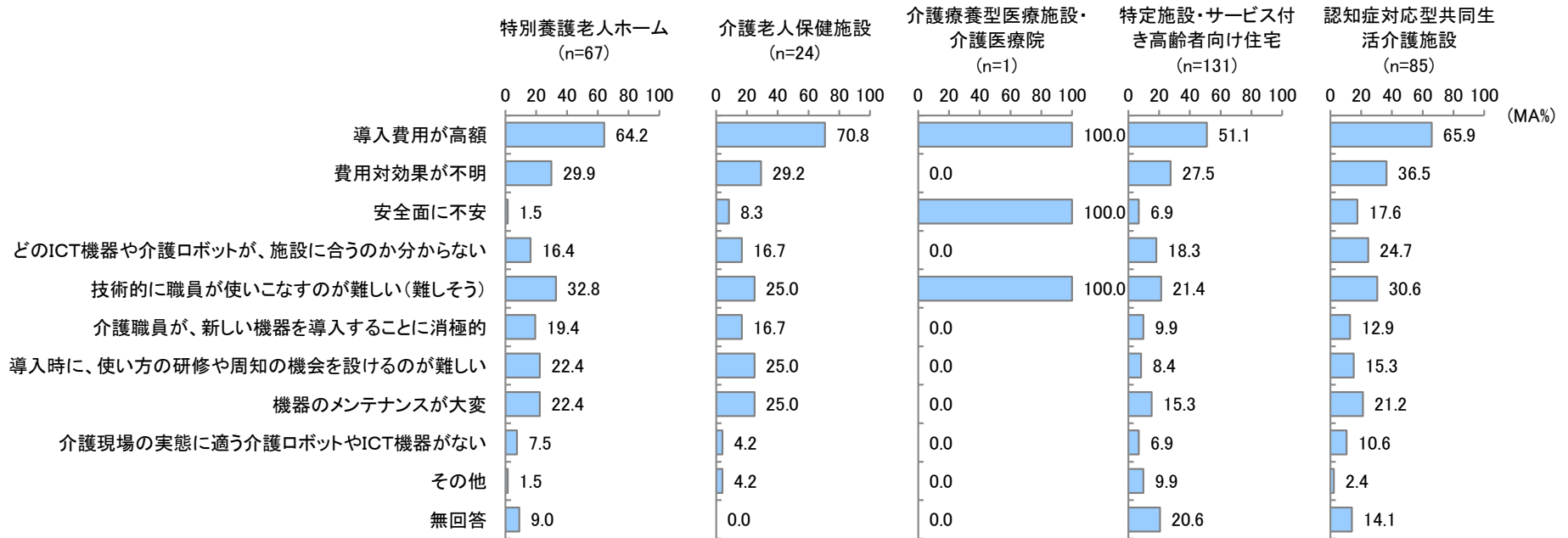
導入している介護ロボット・ICT機器

導入している介護ロボット・ICT機器は、特定施設・サービス付き高齢者向け住宅、認知症対応型共同生活介護施設で「導入していない」が最も多い。また、特別養護老人ホームで「介護記録から介護保険請求システムまで一括していないが、介護記録を管理する単体のソフト」が70.1%と他の施設に比べ高くなっている。



導入して感じた課題や導入していない理由

介護ロボット・ICT機器を導入して感じた課題や導入していない理由は、「導入費用が高額」がいずれの施設も最も多くなっている。



行っているボランティア活動

ボランティア活動について、介護療養型医療施設・介護医療院を除く施設で「ボランティアはいない」が最も多くなっている。ボランティアの内容は、「日常的に行なわれているレクリエーション等の指導・参加支援」「イベント等の手伝い（模擬店、会場設営、利用者の移動補助、芸能披露など）」が多くなっている。

